

医学教育分野別評価 東京医科歯科大学医学部医学科 年次報告書 2020（令和2）年度

評価受審年度 2017（平成29）年

1. 使命と学修成果

改善した項目

1. 使命と学修成果	1.2 大学の自律性および教育・研究の自由
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
なし	
改善状況	
<p>本学医学部医学科では2017年度より、茨城県医療人材課からの要望に基づき、茨城県地域枠学生を対象に茨城県内医療機関での臨床実習（2週間）を選択できるカリキュラムとしている。長野県地域枠学生から、同様に長野県内医療機関での臨床実習を希望する意見が出たため、2019年度第2回地域特別枠対応委員会（2020年1月31日開催）において検討、2020年度から、6年次臨床実習選択実習期間中に長野県内医療機関での実習を選択できることとした。2020年度長野県地域枠6年生2名とも、2020年7～8月に2週間、長野県内医療機関での実習を行い、地域医療に関する理解を深めた。</p>	
今後の計画	
<p>各県における卒後臨床研修プログラムとの連動、また実習期間の拡大などを、医学科教育委員会の下部委員会である地域特別枠対応委員会で検討する。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
資料1-1 2019年度第2回地域特別枠対応委員会 長野県報告資料	

2. 教育プログラム

改善した項目

2. 教育プログラム	2.1 教育プログラムの構成
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
<p>臨床実習で重要診療科を必ずローテーションさせようと組んでいることは評価できるが、実際に学生が重要な症例を平等に経験できるような更なる工夫を行っていくべきである。</p>	

改善状況
本来、診療参加型であるべき臨床実習が、十分に機能していない点が散見されたため、教育委員会の下部組織である臨床実習専門委員会を中心に原因を分析、「積極的に診療に参加して学びたいか否か（意思）」、「指導医による当該医師の判別可能性」という2点から臨床実習中の学生を4セグメントに分け、解決策案を検討した。
今後の計画
2019年度第2回臨床実習専門委員会（2020年2月27日開催）において出された、臨床実習担当教員、臨床実習学生からの意見を集約し、戦略・共通価値観、システム・規定、施設、スタッフおよびスキルといった要素ごとに、段階的に解決策案を実行する。
改善状況を示す根拠資料
資料2-1 本学医学科における臨床実習に関する問題・原因・解決策案

2. 教育プログラム	2.2 科学的方法
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
上記の教育が学生にどのような学修成果を生み出しているのか、測定する工夫を行うべきである。	
改善状況	
医学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版）において、生物統計学・臨床統計学・臨床研究学の基礎を学修する目的で、1）統計の基礎、2）統計手法の適用、3）根拠に基づいた医療<EBM>が追加された。これに対応する必要があることから、医学科・歯学科共通必修科目「医歯学基盤教育（臨床統計Ⅰ～Ⅲ）」のカリキュラム再編について検討を行い、2019年度中に東京医科歯科大学学部専門科目履修規則を改正、2020年度から、医学科・歯学科4年次共通必修科目「医歯学基盤教育（臨床統計Ⅲ）」を従来の6コマから10コマに増やし、教育内容の充実を図った。	
今後の計画	
2019年度に、本学は文部科学省から「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開」の協力校として選定された。統合教育機構学士課程カリキュラム改善チーム、医歯学融合教育担当教員を中心に、医学科・歯学科2～3年次生を対象とした新たなカリキュラムの開発、医学科・歯学科4年次における研究実習期間（医学科：約6か月、歯学科：約4か月）を利用したアドバンスコース（本学M&Dデータ科学センターでの研究活動）の開発などを検討する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料2-2 2020年度医歯学基盤教育（臨床統計Ⅲ）シラバス	
資料2-3 「医学・歯学分野における数理・データサイエンス・AI教育の開発」事業概要	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
全ての学生が早期に患者との接触機会を持ち、徐々に実際の患者診療への参画を深めていくことが望まれる。	
改善状況	
統合教育機構医歯学融合教育推進担当教員が中心となり、全学科・専攻最終学年を対象とした多職種連携教育「チーム医療入門」で患者講師を務めた患者を交えて、低学年多職種連携プログラムを検討した。2019年度第13回医学科教育委員会（2020年11月18日開催）において2020年度の実施が承認され、2020年6月23日に医学科・歯学科2年次学生、保健衛生学科看護学専攻3年次学生全員を対象に、AYA（Adolescent&Young Adult）世代の患者による講演、シンポジウム及びグループワークを実施した。	
今後の計画	
次のカリキュラム改編において、他大学の例を参考にしながら、「低学年での患者接触プログラム」の更なる規模拡大を図ることを検討する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料2-4 低学年多職種連携プログラム案	

3. 学生の評価

改善した項目

3. 学生の評価	3.2 評価と学修との関連
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
それぞれの学習評価が、どのように教育成果と関連しているのか、また、各学年で実施されている総括的評価、形成的評価の内容が医学科コンピテンシーの小領域、細目との関連を明確にし、学生一人ひとりの学修をモニタしていくべきである。	
改善状況	
東京医科歯科大学医学部医学科専門科目履修内規では、仮進級となった学生の再評価について仮進級後「速やかに」実施するよう規定されていたが、具体的な期限が明示されていなかった。そのため、「科目責任者が具体的にいつまでに再評価を行うべきか明確でなく、仮進級の状態が長く続いた後に、科目責任者が不合格と判定し、最終的に仮進級が取り消しとなった場合、学生に不利益が生じかねないこと」、また、「3年次では進級後すぐに実習が始まる場所、正式に進級が決定していないと実習に身が入らないなどの学生の意見があったこと」などから、原則として「4月末日まで」に再評価を行うよう、専門科目履修内規を改正し、期限を明確にした。	

今後の計画
次のカリキュラム改編において、仮進級者の成績の動向などを分析し、仮進級制度の存廃について検討する。
改善状況を示す根拠資料
資料3-1 東京医科歯科大学医学部医学科専門科目履修内規

4. 学生

改善した項目

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
なし	
改善状況	
年2回実施している縦断チュートリアルの実施時期について、例年、前期を7～9月、後期を2～4月に実施しているところ、後期のカリキュラムが過密であること、新型コロナウイルス感染症の拡大によりオンライン授業中心のカリキュラムになったことで学生の精神的不調が懸念されることから、2020年度から、前期を6～7月、後期を10～11月に実施することとした。	
今後の計画	
医学科教育委員会において、縦断チュートリアル担当教員の異動に伴う引継ぎ体制の強化、縦断チュートリアル制度の形骸化防止策などについて検討を行う。	
改善状況を示す根拠資料	
資料4-1 2020年度第1回縦断チュートリアルの実施について	

5. 教員

改善した項目

5. 教員	5.1 募集と選抜方針
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
女性教員を増やすことが望まれる。	
改善状況	
2020年4月より、民間企業と法人契約を結び、派遣型病児保育を開始、教職員及び学生からの申請により、子供が病気の時、あるいは回復期で体調が優れないときにシッターが自宅を訪問し、子供の病児・病後児ケアを行う。大学がケアに係る費用の一部を負担する。	
今後の計画	
学生・女性支援センター男女協働参画支援室／保育支援室が中心となり、引き続き出産・育児、介護、療養などと教育・研究業務が両立できる環境整備を行う。	

改善状況を示す根拠資料
資料5-1 派遣型病児保育利用案内

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
<p>今後は学外病院や診療所の指導医等の能力開発にも取り組み、全体的な指導医の教育能力の向上を図るべきである。</p>	
改善状況	
<p>新型コロナウイルス感染症拡大により、2020年度の授業は原則として、主にZOOMを用いたオンラインで行うことが大学の方針として決定されたことから、2020年3月に、全教員を対象としたオンライン授業における教育手法についてのガイダンスを実施、オンライン授業開始後は、統合教育機構遠隔教育支援チームが適宜授業をサポートしている。オンライン授業であっても、対面授業と同等の教育効果が得られるよう担保している。</p>	
今後の計画	
<p>統合教育機構遠隔教育支援チームを中心に、2020年度のオンライン授業における問題点などを検証し、2021年度以降のオンライン授業の改善に反映させる。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
資料5-2 教員向けZOOMオリエンテーション案内	

6. 教育資源

改善した項目

6. 教育資源	6.6 教育の交流
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
<p>4大学連合との単位互換が行われているようだが実質的には多くの交流がなされていないようであり、今後、より多くの交流を推進すべきである。</p>	
改善状況	
<p>第7回四大学連合副学長会議（2020年2月6日開催）において、4大学連合複合領域コースにおける遠隔授業の一部導入、全コース共通科目の新設など、カリキュラム改善に向けた検討を行った。</p>	
今後の計画	
<p>今後、各大学の四大学連合複合領域コース担当教員を中心とした委員会を立ち上げ、具体的な検討を行う。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
資料6-1 第7回四大学連合副学長会議メモ	

7. 教育プログラム評価

改善した項目

7. 教育プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
卒業生の業績の分析を行うべきである。	
改善状況	
2019年度より、本学卒業後2年程度経過した卒業生に対するアンケート調査を開始した。ここでは、卒業後臨床実践を2年程度経験した卒業生本人より、特に卒前教育と卒後の教育・臨床実践との間の連携という観点から卒前教育に対する建設的なフィードバックを得て、改善のために役立てることを目的としている。	
今後の計画	
上記卒業生アンケートの結果を踏まえ、卒後教育・臨床実践にシームレスに繋がる卒前教育カリキュラムを構築する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料7-1 医学科卒業3年大学評価アンケート（2019年度実施）	